

4 少しずつ確実に漢字の練習を継続させる指導について (2年)

【提示例】

門

もん＝家の門

校門

走

走る＝はやく走る

走り方

ときよう走

牛

うし＝牛をかう

【取組例】

1 自作の漢字プリントを用いる取組

週初めに十個の漢字が書いてあるワークシート(筆順、音訓の熟語入り)をファイルにとじ、月々金曜日で毎日二つずつ漢字練習帳に書いていくこととする。

練習の仕方は、「指でなぞる」文字の上を鉛筆でなぞる」までをプリントで行った後、自分の練習帳に書く。

練習帳に書く際には、指定した熟語を覚えるまで書き覚えたら同じ漢字を用いるほかの熟語で練習する。

週末に十個の漢字の確認テストを行う。早く終わった児童は、指定された熟語以外にも覚えたいものを書くことさらに点数が加算されるシステムとし、意欲を喚起する。

土・日は、間違った字もこれまでに習った字の復習をする。

2 市販のワークブック等を用いる取組

漢字を指定し、「ワークブックに練習」漢字練習帳に練習の流れて毎日取り組ませ、学級の実態に応じた頻度で二、十問程度の確認テストを行う。

3 教科書の巻末「新しく習った漢字」を活用する取組

毎日二、三個の漢字を指定し、それらを漢字練習帳に書かせる。

4 検定制にし、意欲をもたせる取組

週二〜一回、朝目録や帰りの会などで時間を決めてそれぞれ次の級に挑戦させる。

【留意点】

漢字を板書する際や掲示物を作成する際には、一〜三画目を色別で示し、筆順を意識させる。

検定制にする場合、問題は所定の場所に入れておき、児童が自由に取って練習できるようにする。